

技能実習生・看介候補者・
会員企業のための

ジークニュース 2020年12月号 Vol.49 No.12

December 2020

JIAEC NEWS

untuk Perusahaan, Rumah Sakit, Panti Jompo dan
Para Trainee, Calon Perawat serta Care Worker

- 2 会員企業だより -Berita perusahaan-
- 4 看護・介護だより -Berita perawatan-
- 6 協会だより -Berita JIAEC-
- 6 特別教育・技能講習だより -Berita Pelatihan teknik-
- 7 実習生だより -Berita trainee-
- 8 受け入れ企業にききました -Saling berbagi ilmu-
- 10 技能検定 -Ujian teknik-
- 12 受け入れ企業 Q&A
- 14 送り出し機関レポート -Berita dari PT.JIAEC-
- 16 実習生文化探訪 -Budaya Jepang di mata trainee-



© Rizki Murdianto

JIAEC
ジーク

公益社団法人 日本・インドネシア経済協力事業協会

JIAEC (Japan Indonesia Association For Economy Cooperation)

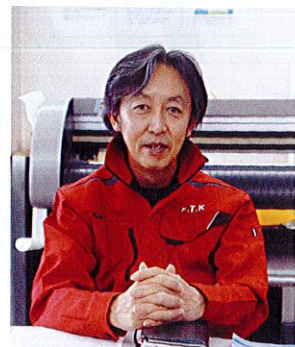
〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-1 VORT 半蔵門 6F

TEL : 03-3221-0613 FAX : 03-3221-4717 e-mail : honbu@jiaec.jp http://www.jiaec.jp

企業訪問
レポート

有限会社藤池塗装工業所

(有)藤池塗装工業所(本社:埼玉県さいたま市)は、1960(昭和35)年から大型特殊車両を主体とした新車塗装を専門に手掛けて60年、日本でも指折りの規模と高度な塗装技術を誇る。グループ企業の株式会社デサン(埼玉県久喜市)と共に、藤池グループ・群馬工場(群馬県邑楽郡邑楽町)へのインドネシア人技能実習生の受け入れは2015(平成27)年から。現在6名の実習生が塗装(金属塗装作業)を学んでおり、今後も引き続き受け入れが予定されている。



藤池一誠代表取締役

手掛けた車両が日本中を駆け巡る

少年たちの大好きな「はたらくるま」。さまざまな大型特殊車両を生み出す我が国最新鋭の自動車組立工場、東邦車輛株式会社の一角を占める(有)藤池塗装工業所・群馬工場。奥行き約18m・縦横幅各6mの大型塗装ブース7基と大型乾燥炉3基を有する6,600㎡の塗装専門工場だ。ここで生産される石油運搬用タンクローリーやコンテナ運搬の重量物トレーラーなどの新車に、思い思いの顧客ニーズに応じて塗装を行う同社が手掛ける塗装台数は年間約2,000台。ライフラインを支え、どんなときにも必要とされるかけがえのない車たちを「より丈夫に、より美しく」彩る。池田勇人内閣の打ち出した「国民所得倍増計画」の掛け声の下歩み出し、高度経済成長と共にひたすら技術を磨き前進してきた同社を承継した令和の三代目、藤池一誠代表取締役は「安全・健康」を最優先に経験豊富な技能集団を率いている。働く人に優しい同社の理念は平均年齢32歳という若さを可能にし、恵まれた福利厚生施設も相まって、広大な工場内に流れる空気はすがすがしい。

藤池社長は昨今のコロナ禍による混乱の中でも軽快なフットワークを発揮、いち早くサージカルマスク入手ルートを確認して現在まで全従業員に無償でマスクを支給、出退勤時には新しいものと交換させて感染防止と健康管理をサポートしている。創立60周年を機にユニホームも一新、深紅の軽やかなジャケットは今までの塗装業のイメージをまさに塗り替える鮮やかさだ。「カッコいいくるまは、カッコいい人がつくる」人づくりこそが高品質の源になる。



撮影のため、一時的にマスクを外しました

「おおきなものはひとりではつukれない」

～伝えていきたい日本の良さ、それはチームワーク～

どこへいっても通用する高度な塗装技術

「一般的にはワークが流れるが、当社では人がワークの周りを回る」。長さ12mのタンクを前に小林隆製造課長は塗装工程を解説してくださった。4人チームで1台を担当、各側面にひとり、高所作業台を移動しながら湾曲面をスプレーガンで塗りつないでゆく。一台一台フルオーダーの特装車。色も形も毎回違うが、仕上がりは常に均一でむらなく滑らか、こ



小林隆製造課長

れがすべて手作業でおこなわれる。藤池社長はインドネシア人技能実習生を受け入れるにあたって、本格的な大物塗装を学べる同社の実習で身に付けた技能は、3年後に帰国したインドネシアの各方面で重宝されるはずと確信していた。走行距離70万kmといわれる大型車の塗装は下地からトップコートまでそれぞれが幾層にも重ね塗りされ、調合する塗料も数10kg単位。さらに立体物を一気に阿成に仕上げ、かつ品質を担保するためには息の合ったチーム育成が不可欠で、そこに国籍や言葉の壁があってはならない。

藤池社長の信任厚い今井一隆工場長は、徹底した根気と愛情に支えられた統率力で多国籍チームをまとめ上げる。

■一戸建ての寮と大浴場で快適に

ご自身も実習生と同年代のお子さんを海外遠征に送り出したご経験を持つ今井工場長は、祖国で帰りを待つ保護者の気持ち痛いほど分かる。「元気にやって来た若者を成長させ、元気に送り返すことがわたしの使命」だから、「日本のお父さん」として、叱るときは叱り、褒めるときは力一杯褒める。朝夕は必ず実習生と顔を合わせ、会話をし、いつもと様子が違うときはじっくりと話を聞く。構内にあるサウナ付き大浴場で汗を流し、別れ際には手を振って「Dada! (バイバイ)」とくだけたインドネシア語であ

いさつ。会話の機会豊富な同社実習生は日本語能力試験も積極的に挑戦し、N3級にも合格している。

のどかな田園地帯にある実習生寮は4LDKの一戸建て住宅で、1期生が入居当時、「長老」と呼ばれる社員の方が同居しながら日本の生活指導をし



今井一隆工場長

てくださったそうで、男所帯とは思えない整頓ぶり、近隣の方々も気持ちの良いあいさつをする実習生を好意的に迎えて下さっているそう。「せっかく海を渡って来たからには仲間を作って帰国後も交流し、国と国との架け橋に。その手段として塗装技術を活用してくれれば」と藤池社長。「当たり前のことを当たり前でできる」のは知識と経験の裏付けあってこそ。互いを支え合うのが(有)藤池塗装工業所だ。



社員旅行の様子



2階戸建ての実習生寮。ゆったりした居間と居室



藤池社長と共に、真新しい深紅のユニホームで

実習風景紹介



実習風景



長大な塗装ブース内でチーム作業



納品を待つ完成車



工場内観